

## ブナシメジ栽培のポイント

### 1 菌掻き

(1) 菌掻き後2時間程度たったら水切りし、生育室に搬入する。

### 2 芽だし管理

(1) 温度は14～15℃とする。15.5℃以上になると溶岩症状や菌塊症状となりやすい。

(2) 湿度は被覆資材の使用有無に関わらず乾燥させないことが重要。被覆をすると菌床面は1℃高くなる。加湿が強すぎると有孔ポリは目詰まりを起こしワタかむりが発生しやすい。無被覆の場合は、水没による芽だし不良に注意する。

(3) 光は、棚奥が見渡せる程度の光を確保する。光不足の場合はワタかむりや菌塊症状の発生に注意。

(4) 棚間の空気の流れに注意し室内の空気のかくはんに努める。

(5) 被覆資材の除去は菌掻き後9～10日後、原基が被覆資材に触れる直前または茎が3～5mm伸びた頃に実施する。

### 3 生育管理

#### (1) 適正温度

適正温は14～15℃。13℃以下では生育遅れや傘のつぶれなど低温障害が発生する。温度ムラをなくすためクーラーの空回りやボルナドファンなどで空気の攪拌に努める。天井の高い生育室は、温度ムラになりやすい。

#### (2) 湿度

過湿状態では傘の水やけや気中菌糸が発生しやすい。

#### (3) 換気

換気はできるだけこまめに行い、収穫時や朝・夕方など日に一度はドア換気を行い、室内の空気の総入れ替えを行う。

#### (4) 光照射

菌掻き後12～15日目が目安。傘直径3～4mm、茎長10～12mm早すぎると傘が開き、遅すぎると茎が徒長する。

#### (5) 100gトレイ用栽培

光照射菌掻き後11～14日後、傘直径2mm前後茎長5～7mmの時期に行う。

#### (6) 照射時間

1日12時間以上、間欠時間は長く長いと茎が徒長する。間欠時間は15～30分が良く、照度は500～1000luxとする。培養日数が長い場合や生育室の炭酸ガス濃度が高い場合は、柄の伸長が早いため早めに光照射する。培養日数がぎりぎりの場合や生育室の温度が低い場合は、遅めに光照射する。